

記憶障害患者へのグループ訓練の試み(その1)

中島恵子* 坂本一世* 水品朋子* 本田哲三*

はじめに

脳損傷例の日常臨床の中では、記憶障害は頻回に認められる症状であり、重篤な健忘は社会復帰や自立生活に大きな妨げとなる。現在までに行われてきたさまざまな記憶訓練の効果は、訓練課題に特異的であることが多く、現実生活におけるさまざまな情報を記憶および想起する能力はなかなか改善せず、般化しにくいことが指摘されている。今回、われわれは代償手段としての「メモの活用」を日常生活の中にまず定着させることを目的に、個別訓練に併用してグループ訓練を試みたので報告する。

1. 目的

個別訓練にグループ訓練を併用することで、1)病態への意識づけを深め、2)メモの必要性を認識し、3)メモをとる行為につなげることをめざす。

2. 対象

クモ膜下出血2名、頭部外傷3名、全員で5名の男性患者。年齢は18歳から56歳。平均年齢は41歳。発症6ヵ月から28ヵ月の慢性期。疾患部位は右前頭葉3名、左前頭葉2名。全員知的には健常域にあり身体的な問題はない。記憶障害のレベルは、Wechsler Logical Memory Testの結果から、軽度を10/24以上、中等度を6/24から9/24、重度を5/24以下で分類すると、軽度1名、中等度2名、重度2名である。記憶障害以外の症

状は、注意障害2名、遂行機能障害1名である。

3. グループ訓練の概要

a. 期間・内容・頻度

期間は、平成12年6月9日から8月25日で、週1回、50分、全部で10回行った訓練内容は、心理療法が、1)病態への意識づけ(5分)、2)注意力訓練1(15分)、3)注意力訓練2(5分)の計25分を担当する。作業療法が、4)1週間の出来事を手帳を見ながら発表してもらう(15分、5)お茶会の準備(5回目のみ20分)、6)服薬と金銭の管理(10分)の計25分を担当する。訓練順序は、病態の意識づけ→注意力訓練1→注意力訓練2→1週間をふりかえって発表する→服薬と金銭の管理、である。

b. スケジュール

第1回目から第10回目まで毎回病態の意識づけを行う。第3回から第10回までの8回、注意力訓練1・2を行う。第2回から使用しているノートの説明が始まり、第3回から1週間をふりかえっての発表をしてもらう。5回にお茶会、第6回から服薬と金銭の管理が始まる。9回に家族参観があり、10回終了後に家族教室を行う(表1)。訓練終了後、患者本人と家族にアンケート調査を行う。

c. 訓練内容

(1)病態への意識づけ(心理療法)(表2)

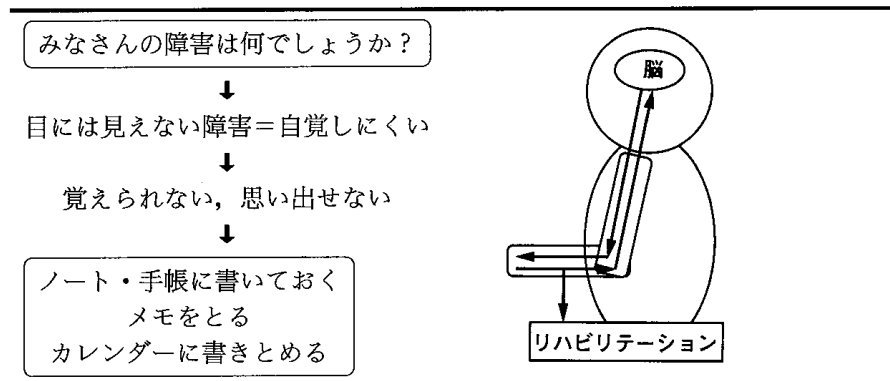
目に見える障害として作業療法による麻痺上肢の訓練場面を想起させた後、「みなさんのリハビ

*東京都リハビリテーション病院

表1 グループ訓練のスケジュール

第1回	病態への意識づけ	自己紹介	概要説明
第2回		使用している手帳の紹介	
第3回	注意力訓練 1・2	1週間を振り返り発表 (手帳を見て)	お茶会準備 お茶会
第4回			
第5回			服薬と金銭の管理
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			家族参観
第10回			家族教室

表2 病態への意識づけ



「リハビリテーションは何でしょうか」の問いかけから始まる。目に見えない障害は自覚されにくいこと、そのため「覚えられない」「思い出せない」ことはメモをとることが必要であるとまとめる。一人1回発言する機会を提供し自分の問題であることを意識づける。この課題は同時に「書くこと」への意識づけを目的としている。

(2) 注意力訓練1 (心理療法) (表3)

10枚の無意味図形課題(中島考案)を1枚につき10秒提示し即時再生する。課題は難易度順にA, B, C, D, の各2回, 計8回行う。施行後, 全員で答え合わせを行い, 「見落とし」への気づきを促す。この訓練も「書くこと」への意識づけを目的としている。

(3) 注意力訓練2 (心理療法) (表4)

抹消課題(東京都老人医療センター藤本考案)を6枚, 3分間施行する。課題は二つの数字を同

時処理する能力が必要である。「時間を気にしながらミスなく行う」を意識づける。施行中は, 30秒毎に時間経過を口頭で知らせる。この訓練も「書くこと」への意識づけを目的としている。

(4) 1週間をふりかえって発表する (作業療法)

手帳の代償手段の説明(何故使用するのか・利便性)を行う。手帳を見ながら1週間をふりかえって, 印象に残ったこと, 困ったことを思い出して発表してもらう。発表した内容は全員にわかりやすいように板書する。

(5) お茶会 (作業療法)

参加者にお茶会に必要な飲み物やお菓子, 紙コップ等を考えて自ら発表してもらい, 持ってくる物を分担して買ってきてもらう。その際, 買った時のレシートを持ってきてもらうこととした。分担した物とレシートを忘れずに持ってくることを意識づける。自分が持ってくる物を忘れるとお

表3 注意力訓練1

A	<ul style="list-style-type: none"> ● 10枚の無意味課題（中島考案）を1枚につき10秒間提示し、即時再生する ● 課題は難易度順にA・B・C・D各2回計8回施行する
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 施行後、答えあわせを行い「見落としへの気づき」を促す ● 「書く」ことへの意識づけ

表4 注意力訓練2

<table border="1"> <tr><td>2</td><td>8</td><td>7</td><td>3</td><td>1</td><td>7</td><td>②</td><td>⑦</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td></td><td>2</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>2</td><td>5</td><td></td><td>1</td><td>7</td><td>8</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>6</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>9</td><td>2</td><td>6</td></tr> <tr><td>2</td><td>4</td><td>7</td><td>5</td><td>9</td><td>4</td><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td></td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>9</td><td></td><td>5</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>6</td><td>7</td><td>1</td><td>5</td><td>3</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>2</td><td>8</td><td>4</td><td>3</td><td>7</td><td>6</td><td>4</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>7</td><td>6</td><td>5</td><td>2</td><td></td><td>7</td></tr> <tr><td>3</td><td>5</td><td>2</td><td></td><td>9</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td>6</td><td>1</td><td></td><td>2</td><td></td><td>7</td></tr> </table>	2	8	7	3	1	7	②	⑦	3	4		2	4	5	4		7	2	5		1	7	8	2		6	1	2	3	9	2	6	2	4	7	5	9	4	8		3	7		4	1	2	2	3	4	4	9		5	3	4	2	6	7	6	7	1	5	3			2	8	4	3	7	6	4	1	1	7	6	5	2		7	3	5	2		9	7	5	3	7		6	1		2		7	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題は抹消課題（老人医療センター藤本考案）を6枚、3分間施行する ● 時間を気にしながら（ペーシング）施行することを意識づける ● 3分間集中してミスなく行う ● 「書く」ことへの意識づけ
2	8	7	3	1	7	②	⑦																																																																																										
3	4		2	4	5	4																																																																																											
7	2	5		1	7	8	2																																																																																										
	6	1	2	3	9	2	6																																																																																										
2	4	7	5	9	4	8																																																																																											
3	7		4	1	2	2	3																																																																																										
4	4	9		5	3	4	2																																																																																										
6	7	6	7	1	5	3																																																																																											
	2	8	4	3	7	6	4																																																																																										
1	1	7	6	5	2		7																																																																																										
3	5	2		9	7	5	3																																																																																										
7		6	1		2		7																																																																																										

表5

ご家族の方へ

アンケート調査のご協力をお願いします。記憶のグループ訓練に参加前後の患者さんの変化についておたずねします。

1. 患者さんの病態認識について（記憶の問題があるという自覚）
 1. まったくない
 2. ほとんどない
 3. 少しある
 4. 以前より良い
 5. かなり良い
2. 「メモの活用」について（メモをとる行為・メモをとろうとする）
 1. まったくない
 2. ほとんどない
 3. 少しある
 4. 以前より良い
 5. かなり良い
3. グループ訓練に参加して変化したこと・感想等何でもお書き下さい。

茶会が成り立たないように工夫した。

(6) 服薬とお金の管理（作業療法）

服薬チェック表と金銭チェック表（水品・坂本考案）を使用し1週間毎にチェック表を見ながら報告してもらい、それぞれできた回数を板書する。自分で薬を飲む、自分が使ったお金の額はどのくらいなのか、への意識づけを行う。

4) アンケート調査

- a. 手帳使用に対する動機づけ（坂本・水品考案）
- b. グループ訓練前後のチェック表（中島考案）（表5）

アンケート調査は、グループ訓練前後に施行した。

5) 服薬とお金の管理（水品・坂本考案）

4. 評価方法

以下の神経心理検査および調査を行った。

- 1) 東大脳研式記憶力検査、有関係対語
- 2) Trail-Making Test (TMT) Part A
- 3) 手帳活用検査（坂本・水品考案）

5. 結果

各訓練内容の結果をそれぞれ述べる。

(1) 病態への意識づけ

アンケート調査bから以下のような意見が認められた。

表6 結果<注意力訓練1>

	1回	2回	3回	4回	前半合計	1回	2回	3回	4回	後半合計
	A	B	C	D		A	B	C	D	
A.Y.	6	7	6	4	23	9	8	8	7	32
S.D.	9	9	10	7	35	9	10	10	9	38
Y.T.	0	1	2	4	7	2	3	4	3	12
S.K.	4	1	8	2	15	4	3	5	2	14
H.T.	10	8	9	6	33	9	8	10	9	36

※前半と後半の比較では4人が改善(4/5)

表8 神経心理学的検査の結果
東大脳研式記銘力検査(有関係対語)

	グループ訓練前	グループ訓練後
A.Y.	7-7-7	8-10-10
S.D.	6-7-7	7-6-9
S.K.	6-6-6	9-10-10
Y.T.	4-4-4	7-6-7
H.T.	0-0-0	6-6-8

「グループ訓練前後では、自分の病態認識に変化がありましたか」の質問に対して、家族の観察では、グループ訓練前の10点からグループ訓練後は15点に改善した。また、同時に施行した自由記載の感想の中では、「人から言われた事は注意して、メモやノートを活用することが大切だと思った(S.D.)」「日常生活を行う上での不満やストレス等、全てが記憶から消えてしまったらどうなるかとよく考えるようになった(H.T.)」「メモを思い出すきっかけを作ることの大切さを本人が自覚するようになった(A.Y.家族)」「本人が日常生活の中で記憶に関して強く意識するようになった(S.D.家族)」

(2) 注意力訓練1 (表6)

訓練の前半と後半の得点比較では、4人に改善が認められた。

(3) 注意力訓練2 (表7)

「時間を気にするとあせってしまって、思うようにうまくいかない」「する前は簡単だと思っていたのに、やってみるとうまくいかなかった」と

表7 結果<注意力訓練2>

	1回	2回	3回	4回	5回	合計
A.Y.	5	2	9	4	5	25
S.D.	4	7	4	19	6	40
Y.T.	13	13	26	9	7	68
S.K.	3	0	1	7	9	20
H.T.	21	14	28	20	23	106

※時間を気にして速くする訓練は「あせり」との関連からエラーが多かった。

表9 神経心理学的検査の結果
Trail-Making Test (Part A)

	グループ訓練前	グループ訓練後
A.Y.	2分48秒	2分34秒
S.D.	1分55秒	1分27秒
S.K.	3分18秒	1分57秒
Y.T.	2分35秒	1分55秒
H.T.	1分15秒	1分36秒

全員がアンケートで述べている時間を気にして早く行う、同時処理的な課題はなかなか改善しにくいことがわかった。

(4)から(6)は作業療法が担当した。「記憶障害患者へのグループ訓練の試み(その2)」で述べる。

6. 結果

- 1) 東大脳研式記銘力検査、有関係対語(表8) 全員に改善が認められた。
- 2) Trail-Making Test (TMT) Part A (表9) 4人に改善が認められた。

7. 考察

記憶障害患者5名に対し、個別訓練に併用してグループ訓練を試みた。結果、1)メンバー間の

交流により、自分の障害の特徴を他のメンバーを通して認識することができ、自らの弱くなった能力への気づきが向上した。2) 病態の意識づけがすすみ、注意力が向上することで「メモを取る」

意識につながった。

本研究は、症例 10 名をまとめ「総合リハビリテーション」に論文投稿中である。